

ニュースクリップ  
**News Clip**

あ 商 ぎ 不 くない 工 たら す 人 び と ぶ く し ま 商 ・ 工 ・ 人

- P2 ヒストリーインタビュー
- P3 専門家アドバイス
- P4 商工会“復興”総決起集会
- P5 青年部・女性部だより
- P6 いいものmekke  
和伊んや(安積店)  
富岡町から新たな地での再スタート
- P8 元気印!!ズームアップ
- P10 Information 商工会だより
- P12 掲示板

風評被害払拭のために様々な取組みをされている(有)仲田種苗園・仲田茂司さんにお伺いしました。

ヒストリーインタビュー

緑でハピネスを提供します。  
石川町・有限会社 仲田種苗園

2012.3.11  
Vol. 356





# 緑でハピネスを提供します。

風評被害払拭のために様々な取組みをされている、有限会社 仲田種苗園・仲田茂司さんにお伺いしました。

## ✿事業紹介

私たちは、昭和三十五年の創業以来五十年間、福島県の里山植物にこだわって生産してきました。公共用緑化木にはじまり、個人庭園用植木、そして屋上緑化用資材など、時代のニーズに合わせた商品開発を行ってきました。近年では四季の美しさを凝縮した「野の花マット」が人気商品であり、平成二十三年秋には伊勢神宮にオリジナル植生マットを納品させていただきました。

## ✿東日本大震災による被害状況

震災では、「野の花マット」の灌漑設備が壊滅して大きな被害を受けましたが、地元の(株)円谷建業さんなどの協力により早期に復旧しました。しかし、お客様のほとんどが関東圏であるため、原発事故の風評被害は深刻で、現在も対応に追われています。

## ✿復興へ向けた取り組み

風評被害に対しては、畑の土や商品の放射能検査を(株)加速器分析研究所・白河分析センターに依頼して、お客様に随時情報提供させていただいています。このように、お客様との信頼関係を再構築していくことに努めた結果、昨年夏頃からは売り上げが例年並

みに回復してきました。

また、地元の石川町役場や商工会の仲間である(株)お菓子のさかいさんなどと、官民協働の復興プロジェクト「トツプランナーS H I K A W A」を推進しています。昨年は首都圏で展示即売会を実施して石川町をPRしました。本年は、このプロジェクトの目標を「石川ブランドの再生」と位置付け、地場産業の育成へと深化させます。

当社は平成二十三年二月、石川町商工会と福島県商工会連合会の支援により農商工等連携事業の国認定を受けました。今度は恩返しの意味も込めて、石川町からこの事業が相次いで認定され、地場産業育成に繋がるように、石川町商工会のセミナー等に協力、支援させていただく予定です。

## ✿新しい商品開発

原発風評被害を払拭するためには、商品開発や経営革新にチャレンジして、震災前よりも付加価値が高い商品やサービスを提供する必要があります。従前の商品や経営スタイルを守る姿勢では、風評に押しつぶされてしまつてしつ。当社では、いままでも卸・流通業への商品供給が売り上げの八十%以上を占めていましたが、震災を機

に、一般のお客様に商品を提供するためのサービスを開始します。

五種の樹木を寄せ植えした「ハッピーツリー」を新規開拓し、人気商品である「野の花マット」と組み合わせ、一畳ほどの狭いスペースでも、四季を楽しむことができるユニットを提供します。本来、首都圏での狭い庭やベランダガーデンをターゲットにしたものですが、福島県内においても要除染地域や仮設住宅でのミニガーデンとして、「癒し」「安らぎ」「生きがい」を提供したいと願っています。

## ✿経営理念

私たちの経営理念は、「幸せ感じる緑のまちづくり」に貢献することであり、緑で人々にハピネスを提供したいという想いがあります。「まち」には、ターゲットである「都市(まち)」と、私たちが住む「町」の意味を兼ねています。トツプランナーS H I K A W Aの活動は、この経営理念に基づいています。首都圏で「野の花マット」を展示即売した際、「なつかしい」「癒される」「やっぱり日本の花はいいわね」と大きな反響をいただきました。少しでもハピネスを提供したいと願う私たちにとって大変うれしい感想でした。

### 企業概要

企業名 有限会社 仲田種苗園  
 代表者名 代表取締役 仲田茂司  
 住所 〒963-7837  
 福島県石川郡石川町大字中野寺内15-5  
 TEL 0247(26)7880  
 FAX 0247(26)8001  
 URL <http://www.eco-plants.net/>



仲田茂司さん

福島原発事故の最大の被害者は子供と高齢者です。仮設住宅の高齢者は家族と分散し、引き籠った生活を強いられることで、高度のストレスや病気が悪化し、孤独死にいたることもあります。このような方々に、なつかしい「野の花」を提供することで、張り合いや生きがいがある生活を取り戻していただきたいと思います。

# 「放射能汚染にどう向き合うか」



株式会社日本環境調査研究所 事業企画部第二種放射線取扱主任者  
東北農政局 食料・農業分野における震災復興に向けた専門家会議委員  
茂木 道教（福島市在住）

我がふるさと福島県は、三月十五日に汚染されました。第一原発のスタック（煙突）から放出された放射能は風に運ばれ、いわき、水戸、東京を経由し、舞い戻り福島県中通り地方に達したとき雨により地表面に降ってきました。また、爆発等で発電所周辺に拡散した汚染は、谷間を流れる浜からの風により浪江、飯館方面に向けて流れました。多くの方々が、家や田畑を後にし、不自由な避難生活を余儀なくされています。

現在の状況をどう考え、どう対処すべきでしょうか。私見を述べたいと思います。

## 放射線被ばくの身体への影響

現在の福島県内に居住しておられる人の受ける年間の被ばく線量は、二〇ミリシーベルトを超えないと推定されます。このような公衆に対する低線量被ばくの身体への影響は、実のところわかっていません。これまで被ばくによる発がん率への影響については、原発被爆者の受けた被ばくと生涯における発がんに関する免疫学的調査により行われました。その結果、乳児、子供、成人を含めて、一〇〇ミリシーベルト以上被ばくしたグループで初めて統計的に〇・五%の上昇が認められました。それ以下の被ばく線量では確認されていません。近年、日本人の二人に一人は生涯においてがんになり、三人に一人はがんが原因で死亡すると言われています。一〇〇ミリ

シーベルト以下の被ばくによる影響は、自然発生的な発がん率と比べて小さすぎてわからないのです。国際放射線防護委員会（ICRP）は、一〇〇ミリシーベルト以下の被ばくであっても、被ばく線量に比例した影響があると安全側に考えようと勧告しています。このようなことを理解すると、放射線の影響だけを過度に心配するより、他の様々なリスク（危険の確率）、タバコや有害化学物質の摂取、生活習慣、ストレスなどによる影響を含めて、総合的に考える必要があることがわかります。

## 本当に怖い放射線による影響とは

「ベクレルたりとも子供に与えたくない」乳幼児食品である粉ミルクから一キログラムあたり三〇・一ベクレルの汚染が検出された時の新聞記事の見出しです。同商品を一か月間毎日摂取した場合の内部被ばく線量は、

〇・〇〇六〜〇・〇〇三ミリシーベルトと算出されています。これは通常の食事によって自然放射性物質を摂取して受ける線量年間〇・四ミリシーベルト程度と比べてもごく少ないものです（食品安全委員会）。しかしながら、乳児を抱える親は、風評による不安な気持ちから、ます本人や家族の安全確保を最重視するようになります。

風評は様々な噂の量に左右され、噂の総量は、あいまいさ×重要性によると言われています。巷に「安全から危険」といった両極端の情報が溢れ、人々は放射線被ばくに関するあいまいさを実感しています。この風評こそが、本当に怖い放射線による影響です。ゼロリスクを求める消費者の極端な反応により、生産や流通業界の経営を圧迫し、観光業に大きな影響を及ぼし、社会的な差別や、将来的な人生設計に及ぶ大きな不利益を被るものになります。

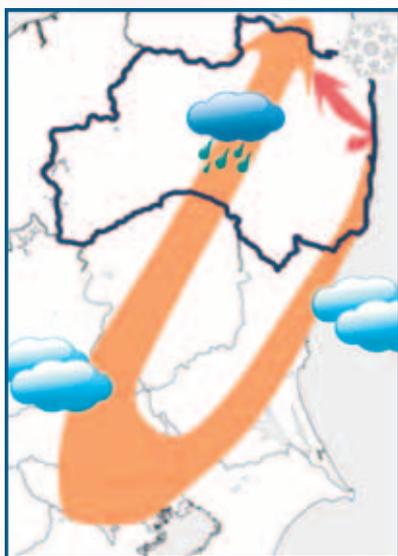
風評は、誤った情報の流布や、安心につながる事実関係が把握されていないことによるものです。ですから、食品であれば「放射能汚染検査体制と測定結果」「影響に対する科学的な正しい情報」が伝えられなければなりません。また、噂や誤った情報を常に監視し、流れ始めた時に、安全性を説明するカウンター

情報が発信されなければなりません。今回の放射能汚染の問題は「一企業で対応することには限度があります。国などの公的機関や、大学・専門機関・業界団体等が協力して、風評被害に対する有効な対策が継続的に行われることが必要でしょう。」

放射能汚染により作付け制限されている田畑等は、約二万ヘクタールと言われています。今後、放射性物質汚染対処特別措置法の施行により除染が行われる予定ですが、全く元の状態に戻すことは困難です。これらの場所の稲作、畑作、牧畜といった経営資源を生かしつつ、汚染の残る地域で営農できる道を見出す必要があります。風評に対処しながらこれらの土地で食糧生産を続けることは、正直

## 汚染された県土をどうするか

「Fukushima」の復興は、世界が注目しています。原子力を抱える国は、明日は我が身と考えているからです。前途は多難ですが、それぞれの立場で県民の一人として福島県の復興を目指して、ともに前進していきたいと思えます。



2011年3月15日の風の流れと汚染の拡散

# 商工会“復興”総決起集会

## ふくしまの再生に向けた89商工会1,000人集会



### 迅速な賠償求め決議 国に支援働き掛ける

商工会復興総決起集会が二月二十五日、須賀川市の「須賀川市文化センター」で開催され、来賓を含め八十九商工会、青年部、女性部会員約一、三〇〇名が参加した。

集会には、国会会期中であったため、経済産業大臣、環境大臣、復興対策大臣は招聘できなかったものの、柳澤光美経済産業大臣政務官、吉田泉東日本大震災復興対策本部福島現地对策本部長が代理出席し、県選出の国会議員も多数参加した。

瓜生秀雄副会長が開会を宣し、田子正太郎会長が「風評被害によって中小企業の経営は悪化し、廃業・倒産に追い込まれている。国に万全の対策、東電に損害賠償を要請しているが具体的対応はなされていない。迅速・完全な賠償、支援を求め、地域再生を目指していく」と挨拶した。

松本副知事を始めとする三名の方々の来賓挨拶、柳澤政務官、吉田現地对策本部長の挨拶の後、阿久津専務理事より「東日本大震災に対する支援活動等の動きについて」現況報告があり、代表商工会員として四名の商工会長より意見表明が行われ、総決起集会決議として「原子力損害賠償の完全実施」「原発事故の完全収束と除染対策等福島復興・再生」「風評被害の早期払拭への支援強化」「復興に向けた中小・小規模企業支援施策等の充実強化」の四項目を採択し、柳澤光美経済産業大臣政務官、吉田泉東日本大震災復興対策本部福島現地对策本部長に要望書、東京電力の鼓紀男副社長に要求書を提出した。続いて、県選出国會議員による決意表明が行われた。

最後に、復興へ向け全員でガンバロウ三唱を行い、組織一丸となつて戦うことを誓い結束を新たにした。

### ！ 代表会員による意見表明



県連副会長  
吉田 美政 氏



浅川町商工会長  
鈴木 廣 氏



南会津町商工会長  
渡部 文一 氏



鹿島商工会長  
澤田 一夫 氏



双葉町商工会長  
田中清一郎 氏



### 復興へ向け氣勢「ガンバロウ三唱」



参議院議員  
増子 輝彦 氏



参議院議員  
岩城 光英 氏



参議院議員  
荒井 広幸 氏



参議院議員  
金子 恵美 氏



衆議院議員  
石原洋三郎 氏



副知事  
松本 友作 氏



商労文教委員長  
満山 喜一 氏



全国連会長  
石澤 義文 氏

### ！ 田子会長より要望書・要求書提出



経済産業大臣  
政務官  
柳澤 光美 氏



東日本大震災復興対策本部  
福島現地对策本部長  
吉田 泉 氏

## “無常を知り、希望をもつことが復興への第一歩”

### —絆復興プロジェクト 双葉町商工会女性部—

双葉町商工会女性部の吉田岑子部長は、部員39名のうち約半数が県外避難し、不自由な避難生活を強いられ、地域の情報も乏しく、不安な状況が続いていることに危惧し、部員間の絆を深め、心の支えになるようにと考え、磐梯熱海温泉ホテル華の湯（H23.11/15）にて講演会を開催しました。

講師には東日本大震災復興構想委員会の委員である玄侑宗久氏をお迎えし「無常を生きる」と題して講演会と意見交換会を行いました。

心のケアについてや、実践的な環境放射性物質の話、地域コミュニティの維持、再生についてなど貴重な意見を聴講することができました。

震災で、原発事故で、心に深い傷を負い、今も、困難に直面している部員の久しぶりの再会は、声を詰まらせ言葉にならなく、また涙があふれ、止まりませんでした。

“この世は常ならず”という言葉の通り、何事とも同じ状態は長くは続かず、物事は必ず変化します。手を取り合えば必ず、前に進む事が出来ます。今は、それぞれの部員が異なった地での生活を余儀なくされておりますが、再び同じメンバーで活動ができる日まで、いつかまたみんなで心から笑える日まで、「絆」を深め、支えあい、女性部活動を継続して行くことが今、大切（求められていること）なのかも知れません。



## 絆から生まれた復興への「道」

### —商工会青年部全国大会in和歌山への参加—

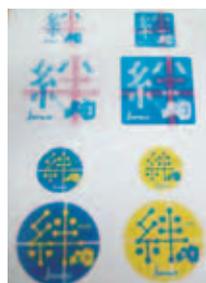
商工会青年部全国大会が、平成24年2月7日から2日間、和歌山県和歌山市「和歌山ビッグホエール」において盛大に開催（福島県参加11名）されました。

大会初日のオープニングでは、東日本大震災の現状報告と題して、東北北海道ブロックを代表し、岩手、宮城、福島の3県の県青連会長が演題にて現状報告しました。

山川憲彦会長は、まず全国から頂いた義援金や復興に係る支援のお礼を述べられ、福島県の厳しい現状と、今後さらに復興へ進むための協力を呼びかけました。

2日目の全国青年部長会議では、佐藤健太理事（飯舘村）より、東京電力第1原子力発電所事故に伴う、全国各地の避難者数や商工会事務所の移転状況の他、原発事故による風評被害の現状を報告しました。

また、大会期間中は、会場前広場において和歌山県物産展も同時開催され、東日本大震災復興ブースにおいて、本県特産品や復興支援グッズを販売し、全国の青年部員へ福島県のPRを行いました。



▲物産展にて販売した絆ステッカー（矢祭町）



▲山川県青連会長



## ◆自分の夢を叶えて…

ご両親は教員をされていて共働きだったため、鍵っ子だった。おやつなど小さいころから自分で作っていた。それが好じて料理大好き少年になった松崎さん。自然に恵まれた富岡町。家の周りには畑があり、食材には事欠かなかったという。農家を営んでいるおじ、おばから季節(旬)の野菜のおいしい食べ方を学んだ。富岡町のすばらしさは(食材・環境・人)すべてに恵まれている事。生まれ育ったこの町で、30歳までに開店する事を目標に仙台市のホテルで7年間修業を積んだ。板前を志し修業を積んだが、修業先のホテルは冠婚葬祭など幅広く手掛けているところだったため料理だけでなく、いろいろな事を学んだ。部署は違ったが、時々洋食や中華の手伝いも買って出た。今もその経験が生かされている。おいしいものの提供は勿論のこと、地元の人が集まれる場所を作りたい。念願叶って平成13年富岡町夜ノ森に開業。地元の食材をふんだんに使い、シンプルで素材を活かした料理が自慢の和食を中心とした店。開店して10年。お店も順調に進んでいた矢先…あの日がやってきた。



### 東日本大震災 復興応援プロジェクト版

海・山、温暖な気候…  
富岡町は自然に恵まれた豊かな町。  
春には桜が咲き誇り、町全体が活気づく。  
安全神話は無情にも崩れ、人々が幸せに暮らすその町にも、震災の爪痕が残されました。

## 四季の食彩

# 和伊んや (安積店)

### 富岡町から新たな地での再スタート

突然の避難命令。家族を伴い、川内・二本松・神戸へと半信半疑のまま避難先を移転。

周りが地元(富岡)へ戻ることをあきらめ始めた時、自分が立ち上がらなければという使命感に駆られ避難者のために立ち上がった。

そして、2011年11月末、和伊んや安積店オープン。

### 和伊んや 一押しのメニュー 季節のお造り

いまは福島の水が使えないので、北海道と大船渡で水揚げされた旬の魚を中心に使っている。



国道4号線沿いヨークベニマル安積店過ぎ左手

#### 和伊んや (安積店)

富岡夜ノ森本店 双葉郡富岡町本岡夜ノ森166-1  
郡山安積店 郡山市安積3-157  
TEL 024 (973) 7234  
FAX 024 (973) 7239

#### 営業時間

ランチ 11:00~14:00  
夜(平日) 17:00~22:00  
【ラストオーダー21:30】  
土・祝前日 17:00~23:00  
【ラストオーダー22:30】

定休日 毎週月曜日





## ❖ 戸惑いながらの再スタート

「地震が発生してすぐあと、今までに見た事のない黒い雲が山の方から押し寄せてきた。もうこの世の終わりだと感じた」そのあと津波が押し寄せたという。そして原発事故。消防団の活動にも参加していた松崎さん、突然の避難命令の後も、最後まで活動を続けた。倒壊、津波の被害はほとんどなかったが、お店は原発から7kmほど離れた場所にあった。「原発事故さえなければ…」そう悔やまれる。子供のころから原発と共存した生活だった。まさか安全神話が崩れるとは想像もしなかったという。止む無く避難を強いられ家族と共に県内外と避難所、親戚の家を転々とし、周りの人たちが帰宅をあきらめ始めた様子を見て、ここで行動を起こさなければ何もかも終わってしまうという衝動に駆られ周りの反対を押し切り再開の準備を始めた。昨年生まれたばかりの子供のことも気がかりだったが、家族も了承してくれた。

浜通りから中通りへ移転しての再スタート戸惑うことは多い。しかし、噂を聞きつけ以前の常連さんが毎夜訪ねて来てくれる。「今は再会の喜びを感じている」と語る松崎さんはとにかく人が大好き。新規できてくれているお客さんにも常連さんになってもらえるよう頑張りたい。いつか支店を持つことを目標にしていた。移転しての再オープンではあるが、支店を持つ夢を叶えたと語る。本当に前向きな人だと感じた。

## ❖ 夢を叶えるために…

「またいつか、福島の食材を存分に使って料理を作りたい」

富岡町に帰るため忙しい合間をぬって、農・漁業に関する情報収集をしている。

そして“花見山計画”なるものを企てているのだ。

富岡は桜の時期とても活気づく。桜だけだと春だけで終わってしまう。富岡には春夏秋冬季節の花がある。一年中楽しめるよう植栽し花見山を作り町に活気を取り戻す。

「いつか ふるさとの夜ノ森 でお客さんにお帰りなさいと言いたい」「そして握手を交わすことが今後の夢」と語った。今までいくつもの夢を叶えてきた松崎さんなら必ずその夢も叶えられるような気がした。



広域指導センターだより

# ズムアップ。

元気印

県内4地域の広域指導センターから、地域でがんばっている会員企業をご紹介します。  
みなさんの経営のヒントになるお話もたくさんいただきました。  
是非、ご感想を福島県商工会連合会までEメールにてお寄せ下さい。(f-wing@do-fukushima.or.jp)

## 県北

福島県商工会連合会

### 「靴、カバンもエコライフ」



川崎クリーニング  
加藤 行郎氏

〒960-1241  
福島市松川町字天王原3  
電話:024-567-2302

#### ■靴&鞆のクリーニング?

地域に密着したサービスを展開し、『まちのクリーニング屋さん』として創業50年を迎えます。ちょうど昨年、地元松川町商工会の青年部長の役目を全うし、あらためて自社の経営と向き合い、5年後、10年後のお得意先の高齢化等によるクリーニング需要の減少を懸念し、何か対策を!と考えていた時に、これまでになかった『革製品のクリーニング』といった斬新的な発想に興味を持ち、他県で開催された技術講習会に迷わず参加しました。あわせて今後の経営について商工会に相談したところ専門家支援事業の提案があり、この支援でマーケティングの重要性についてあらためて考えさせられました。

#### ■自分に何ができるだろう!?

東日本大震災による原子力発電所事故直後は、



松川町内で今の仮設住宅のように生活家電が充実していない避難所生活を余儀なくされている沿岸部の方々を目の当たりにし、自分に何ができるだろう!と考え、避難所を巡回した無料のクリーニングサービスで喜んでいただけました。

#### ■地元あつての川崎クリーニング

これまで『革製品のクリーニング』の概念がなかったことから、このサービスを地域に浸透させることが課題ですね。地元あつての川崎クリーニングですので、これからも既存サービスのレベルアップと新たな技術の提供により地元に一層貢献し、お客様の喜びに繋げていきたいです。

## 県中・県南

中通り広域指導センター

### 「店舗全壊からの再起・地域の繋がりを実感」



のぎマート・廚(くりや)のぎ  
代表 野木 登志雄氏

〒969-0213西白河郡矢吹町本町12  
TEL 0248-42-3008  
仕出し&惣菜販売 全日  
ランチ 11:30~14:00

矢吹町にて昭和10年に創業。米屋、スーパーを経て、仕出弁当と惣菜販売業を営んでおりました。東日本大震災により店舗が全壊してしまい、商売をやめるか続けるか葛藤の日々が続きました。しかし、このままで終われるものかと思い、商工会等に相談して専門家派遣などでアドバイスを頂き、この度『廚(くりや)のぎ』として再オープンいたしました。

『廚(くりや)のぎ』は、お客様に「出来たてのあたたかいものをおいしいうちに食べてもらいたい」という思いから、以前の仕出弁当だけでなく食堂施設を備えました。今までの惣菜調理のノウハウを活かし、弁当にはないあたたかさ、味やボリュームと安さにもこだわって営業しています。

1コイン(500円)の「日替わりランチ」や、震災以前からの看板メニューであった「ギョーザとんかつランチ」は、お客様に好評を頂いております。ぜひ、お近くにお越しの際はお立ち寄りください。

この度の震災によって様々なものを失いましたが、代わりに地域の繋がりの大切さを

感じました。地域の方々への恩返しの意味も込めて、長年商売を営んできたこの土地で営業していくことで、町に元気を取り戻したいです。



ギョーザとんかつランチ

# 会津

会津広域指導センター

## 「仲良しママさんが夢描く 手づくり菓子工房」



サブレ香房チョコロ・ゆめ

代表 桑名 佐文さん  
大竹美恵子さん  
原田 まちさん

〒967-0004  
南会津郡南会津町田島字後原甲3468  
TEL:0241-64-5281

### ■起業のきっかけを教えてください。

私たちは南会津町にある事業所の菓子製造部門に勤めていました。震災後、この経験を生かそうと3人で相談して独立開業を決めました。屋号の「チョコロ・ゆめ」とは、代表者が飼っている2匹の猫の名前からもらったものです。

### ■セールスポイントは何ですか。

私たちが作るお菓子はすべて手づくりです。一枚一枚愛情を込めて焼き上げています。前の勤務先から受け継いだ商品のほか、新商品チョコロサブレやカフェ向けの焼き菓子の開発にも取り組んでいます。材料にこだわって質の高い焼き菓子をお客様に提供したいと考えています。

### ■今後どのような事業展開を予定していますか。

当面の目標は新商品チョコロサブレの製品化です。パッケージを工夫して、南会津にお越しになる方々にぜひ買っていただきたい



です。また、南会津を代表する食材、たとえば酒粕やアスパラなどをお菓子作りに取り入れていきたいと思っています。同時に季節感が感じられる商品づくりにも挑戦したいです。そして、南会津を象徴するような手づくりのお菓子里に育て上げていきたいと考えています。



# 浜通り

浜通り広域指導センター

## 「まごころ込めて、 手作りしています」



有限会社 秋元漬物店

代表取締役 秋元 忠二氏

〒973-8402  
いわき市内郷御殿町2-69  
TEL 0246-26-3423  
FAX 0246-27-3902  
URL <http://tukemonoten.com/>

### ■手作りへのこだわり

弊社は、昭和30年創業の漬物製造小売店です。お客様においしく食べて頂きたく、看板商品の「しそ巻き」を始め、全ての商品を最初から最後まで思いを込め、手作業にて造っております。また、使用する醤油も手作りにこだわり、漬物本来の味・食感・香り等が楽しめるよう加熱殺菌を行わず、完全要冷蔵にて販売しております。

このように大量生産が難しいため、スーパーでの委託販売は行わず、地元の限られたお店やお客様に支えられ、これまで営業を続けてまいりました。

### ■風評被害に負けないように

商工会による復興イベント等へ出店し、お客様には、少しずつ商品の安全をご理解頂いているところですが、原発事故による風評被害は、未だ払拭できない現状にあります。厳しい状況にあっても、

長年ご愛顧頂く方々や、これからご購入くださるお客様のために、今まで以上に、手間を惜しまず、美味しく・安全な「秋元の漬物」を造っていききたいと思います。



# Information

商工会だより

## 商工会合併二年目を迎えて きたかた商工会



きたかた商工会長の瓜生秀雄です。当地域は、平成十八年一月四日に旧喜多方市・熱塩加納村・塩川町・

人材の育成を図ると共に、農工商連携による新事業展開や創業を考えている方の支援を行うもので、様々なニーズに対応した講座を模索しながら開設しているところ。



### きたかたスーパープレミアム商品券発行事業

きたかた商工会では、会議所と共に、「東日本大震災復興特別事業」として「きたかたスーパープレミアム商品券」を六月と十二月の二度にわたり発行しました。六月は発行総額一億二千万円。十二月は発行総額三千六百万円。喜多方市全域の参加店で利用で



き、プレミアム二十パーセントというところで消費者に好評なだけでなく、大型店での利用制限を設けたことにより小規模な会員事業所での利用も多く好評を頂いております。

### 一店逸品事業

合併商工会管内の会員事業所PRのため、一店逸品事業として「きたかた商工会員逸品マーケット」(ガイドブック)を作成しました。旧喜多方市は、ラーメンの街として全国に知られ、観光客も多く訪れています。商工会管内地域の知名度はまだ低いことから、各事業所の逸品を集め冊子にし、情報発信のツールの一つとして作成しました。管内観光施設へ依頼し観光客へ配布したり、首都圏での物産展で配布するなど、県内だけでなく広範囲へ会員の自慢の逸品を発信できたものと思っております。また、現在ホームページの活用による情報発信についても取り組んでいるところです。

### イベント&復興支援

東日本大震災や福島原発の事故をうけ、各種イベントの中で復興へ向けた事業を展開しております。

いわきでの避難者支援炊き出しを皮切りに、「二市一ヶ村川の祭典」では、震災復興ステージを設け、復興を願うプログラム構成により花火を打ち上げると共に、震災原発等により避難している方々を桟敷席に招待しました。

また、「みちくさ通り賑わいイベント」では、復興支援サービスコーナーを設置

し、豚汁や舞茸酒を無料提供しました。更に「ひめさゆり祭り」では被災者の方の入場料やシャトルバスの利用料を無料にするなど、各地域において被災地支援、復興支援に向けて取り組んでいるところです。



復興支援



川の祭典花火

# 地域の振興発展をめざして

## 三和町商工会



三和町商工会長の  
田子正太郎でございます。

三和町は、いわき市の面積の六分の一を占め(二百四十四平方キロメートル)、東西には三十五キロメートルの広さがある町です。自然豊かな森と清流の町として大変住み良い町であります。町の中心を国道四十九号線、北寄りに磐越自動車道が通り、交通の便が良い町でもあります。

### 郷土料理を現代風にアレンジしたレシピ開発

地域の祭り事や祝い事、誕生日に必ず食べられてきた郷土料理を伝えるべく、小規模事業者新事業全国展開支援事業に取組み、福島県・いわき市などの行政・専門家からアドバイスを頂きながら、子じやがいもを三和味噌でからめた「味噌ポテト」、塩味に小豆と米粉団子を入れた「大師講団子」、三和の玄蕎麦を使った「すいとん」など、郷土料理を現代風にアレンジしたレシピを開発しました。大試食会

には多くの方々に参加頂き、三和の郷土料理の良さをご理解頂きました。



味噌ポテト



大師講団子



すいとん

### 交通・買い物弱者支援事業

いわき市の支援により、高齢化のため地域ステップアップ支援事業「三和町有償輸送事業」の社会実験を行いました。この数年で、地域の高齢者交通を支える路線バス本数が急激に減少し、従来の公共交通に代わる新たな生活交通手段の構築を目的とし実証実験を行いました。実験を行った結果、地域の高齢者利用登録が百三十四名あり、有償輸送を利用することで小売店飲食店の消費や趣味の活動への参加機会が増加し、高齢者の生活改善と地域活性化にも効果ある結果となりました。一年間の社会実験でしたが地域高齢者に大好評の事業でありました。

また前事業と関連し、地域住民サービスの一環とし買物サービス事業「三和町はなまる宅配サービス」を行いました。この事業は、電話により注文から配達まで行う買物サービス提供と商業活性化を目的とした事業であります。介護事業者とも連携を図りながら、商工会委員による継続した周知や事業展開を行った結果、ヒット商品も生まれ町内以外からも注文を得るに至りました。

### 作文・図画コンクールの開催

三和町の将来を考え、今、子ども達は、自分達が生まれ育つこの郷土に、何を感じているのだろうか。将来への夢や期待、子ども目線での地域づくり提案を目的とし、小中学生を対象とした「作文・図画コンクール」を十三回実施しております。応募された作品は、作品集「杉の子」として、三和地域のご家庭へ配布しております。

### 会員の集いの開催

会員の福利厚生事業の一環として、年に一度会員や家族、従業員を対象とした交流事業「会員の集い」を行っております。パーベキューや県外視察により、会員同士がふれあい、コミュニケーションを持つことにより、和が広がり組織が活性化しております。

### 三和の里フェスティバル

毎年十一月三日に「三和の里フェスティバル」が開催されます。このイベン



三和の里フェスティバル

トは、三和ふれあい館を会場として、行政や商工会・JAなどの各種団体が一同に集まり、採れたて野菜販売や展示などが会場一杯に繰り広げられます。三和の高原野菜を目的に地域内外よりたくさんのお客様が訪れるため、町を挙げたイベントとなっております。

今、福島県は原発事故と言つ大災害が降りかかり大変な状況に在りますが、ピンチをチャンスに捕らえ会員一同頑張る所存です。国道四十九号線を通る折には、商工会に隣接する三和ふれあい館に入浴施設がございますので、是非お立ち寄りください。

# Information

## 商工会だより

IT・クラウドを活用した中小企業様経営基盤強化

## クラウド型販売管理、給与計算サービスのご案内

東日本大震災にて、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。  
このたび商工会では、被災された多くの事業者様に向けた事業復興支援として、販売管理、給与計算のクラウドシステム「Clearworks復興応援パック」を無償でお使い頂けるサービス提供に向けて準備を進めております。  
「Clearworks復興応援パック」は、すでにお使いいただいている経理ソフト「ネットde記帳」と連携してご利用いただけます。今後、利用方法をご説明するセミナーを順次開催致しますので、是非ご参加ください。  
本サービスが皆様の事業復興の一助となれば幸いです。

本サービスの  
特長

- 販売、給与の統合業務システム**  
「ネットde記帳」と「復興応援パック」(販売管理、給与計算)を組み合わせることで、販売管理、給与計算から「ネットde記帳」への連携が可能です。
- 即時利用可能**  
インターネットに接続されたブラウザが動作するPCさえあれば、インストールすることなくお使いいただけます。バージョンアップ作業なども不要です。
- 堅牢なセキュリティで大切なデータも安心**  
24時間365日の運用監視、耐震耐火構造、堅牢なセキュリティ環境を備える大規模データセンターで集中運用されていますので、災害時や不正侵入などへの対策も万全です。

### 「復興応援パック」のご利用について

- **福島県、宮城県、岩手県の商工会会員様向けサービスの提供期限:平成25年3月31日**  
平成25年4月以降は、1ヶ月3,150円(6ID)の利用料が必要となり、富士通株式会社との契約が必要となります。
- **操作に関するご質問について**  
「Clearworks復興応援パック」の操作に関するご質問を、下記フリーダイヤルでお受けしております。  
0210-933-745(平日10:00~19:00)

## マル経融資が使いやすくなりました。

### (小規模事業者経営改善資金融資制度)

→ マル経融資制度は、経営改善を図ろうとする小規模事業者の方々をバックアップするため、無担保・無保証人・低利で融資する制度です。

### マル経融資制度の特徴

融資限度額は?

1,000万円 → **1,500万円に拡充**

担保・保証人は?

**不要です** ※ 本人保証も不要です

返済期間は?

○ 運転資金5年以内(据置期間6ヶ月)  
→ **運転資金7年以内(据置期間1年)**

○ 設備資金7年以内(据置期間6ヶ月)  
→ **設備資金10年以内(据置期間2年)**

※利率は平成23年8月現在で1.85% ※利率は変動しますので最寄りの商工会へお問い合わせ下さい。